

学術情報 メディアセンター

ダイナミックに変化する情報環境において、
実社会で即戦力となる人材の育成と、
情報処理の基礎教育に取り組んでいます。

〔写真〕 CALL 自律学習用端末の利用風景

教育における学術情報 メディアセンターの役割

全学共通科目の語学教育と情報教育をセンターの計算機環境を利用して行っています。

全学共通教育における役割

学術情報メディアセンターでは、京都大学におけるさまざまな教育研究活動を支えるために、高い安全性と利便性を備えた先端的な情報環境を構築・運営しています。センターでは、学術情報ネットワーク (KUINS)、スーパーコンピューティングサービス、および学生の皆様に関係の深い語学学習システム (CALL)、教育用コンピュータシステム、そして、遠隔講義支援サービスを情報基盤機構と共に提供しています。

CALL

CALL (コール) とは、Computer-Assisted Language Learning の略で、コン

ピュータを使用した外国語学習を指しています。CALL 授業には、「教室学習型 CALL」と「自律学習型 CALL」があります。「自律学習型 CALL」クラスは、学生が大学の自習室や自宅などコンピュータの使用できる環境で、CALL 用に開発された CD-ROM 教材を使用し、時間や場所に拘束されることなく学習することができます。

現在、自律学習型 CALL を大規模に導入している英語授業では、成績は 3 回の試験の得点と FD に記録された学習時間に基づいて判定されます。

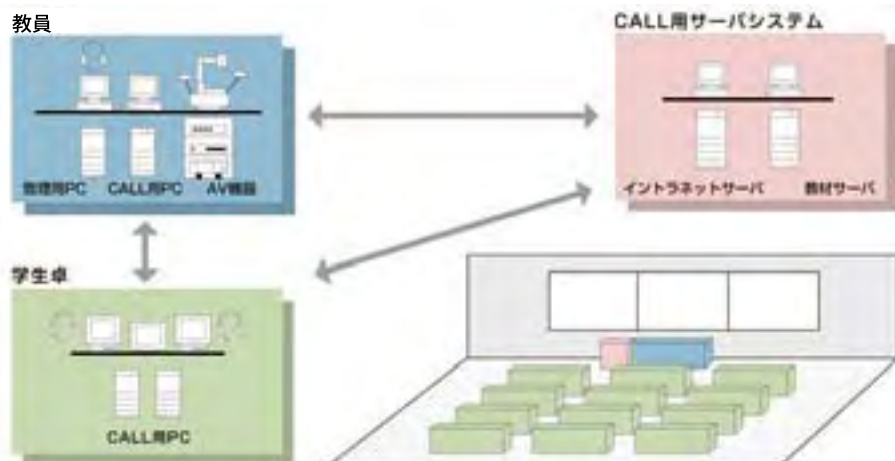
英語における自律学習型 CALL の導入は、再履修者が非常に多くなり、大人数クラスでの授業を余儀なくされたため、高度な英語教育の実施に支障を来すようになったことが契機ですが、「発音、文法、基礎会話」等の外国語基礎運用能力向上のための新しい教育方法として、他大学から高い評価と関心を得ているだけでなく、学生の満足度も高いという結果が出ています。

また、ドイツ語、フランス語等においても CALL 用の教材を独自で開発し、教室学習型 CALL 授業に導入するとともに、CALL 用自習室における学生の自律学習にも活用されています。

情報教育

京都大学では、理工系学部のみならずほとんどの学部において基礎情報処理教育が行われています。その内容はいわゆるコンピュータに関する読み書き能力を中心としたものです。理工系学部によってはこれらの教育を専門基礎科目として、あるいは、全学共通科目の B 群科目としていますが、文系学部ではさらに初歩的なレベルからの教育も行われています。

学術情報メディアセンターでは、全学共通科目だけでなく、各学部でのメディアを利用した教育も支援しています。



〔図〕 CALL 教室システム概念図



〔写真〕 上：CALL 自律学習用端末の利用風景 / 下：CD-ROM 版 CALL 教材

センターの提供するシステムおよびサービス

CALL 自律学習コーナー / CALL Learning Space

学術情報メディアセンター南館オープンスペースラボラトリー内には、「CALL 自律学習コーナー」を展開しており、語学教材を自習できる端末を設置しています。

CALL 自律学習用端末では、センターで開発された Introduction to the Beauties of Kyoto を始め、本学教員が開発した英語、フランス語、ドイツ語、中国語、韓国・朝鮮語などの自律学習用外国語教材、またライセンス取得済みの市販教材の一部の学習をすることができ、学生にとっては、必須の環境となっています。

また、同じく語学の自習室として、吉田南総合館北東2階に設けられた「CALL Learning Space」には、ヘッドセットとCALL授業（外国語教育参照）のテキストがインストールされた Windows 自習用端末を20台設置し、ティーチング・アシスタントの常時配置で学習を支援しています。

教育用コンピュータシステム

教育用コンピュータシステムはネットワークに接続されたパーソナルコンピュータ約1,300台を学術情報メディアセンター南館内の演習用マルチメディア設備を備えた教室や

CALL 教室、サテライト端末室など30カ所に展開しています。その一部は利用者がいつでも使える自習用端末として、学術情報メディアセンター北館および南館、附属図書館、人間・環境学研究所総合人間学部図書館内にオープンスペースラボラトリー（OSL）として設置し、運用しています。

これらの端末では、Windows と Linux の2系統のオペレーティングシステムが利用可能です。またオフィスソフトのほかプログラミング言語の処理や統計処理、数式処理など大学での学習に必要なさまざまなソフトウェアが導入されています。さらに、利用者には電子メールのアカウントが与えられ、WWWブラウザを利用した Web メールシステムにより学内だけでなく、学外からもメールの読み書きが行えます。このようなサービスにより、授業と自習とに統合的な情報環境を提供するとともに、電子メールや WWW を利用したコミュニケーション環境を提供しています。

学術情報メディアセンター

- 北館 OSL のサービス時間
月～金曜日：10:00～17:00
(土日祝日閉館)
- 南館 OSL のサービス時間
月～金曜日：10:00～20:00
土曜日：10:00～18:00
(日祝日閉館)

担当：情報部 情報基盤課
教育支援グループ

遠隔講義支援サービス

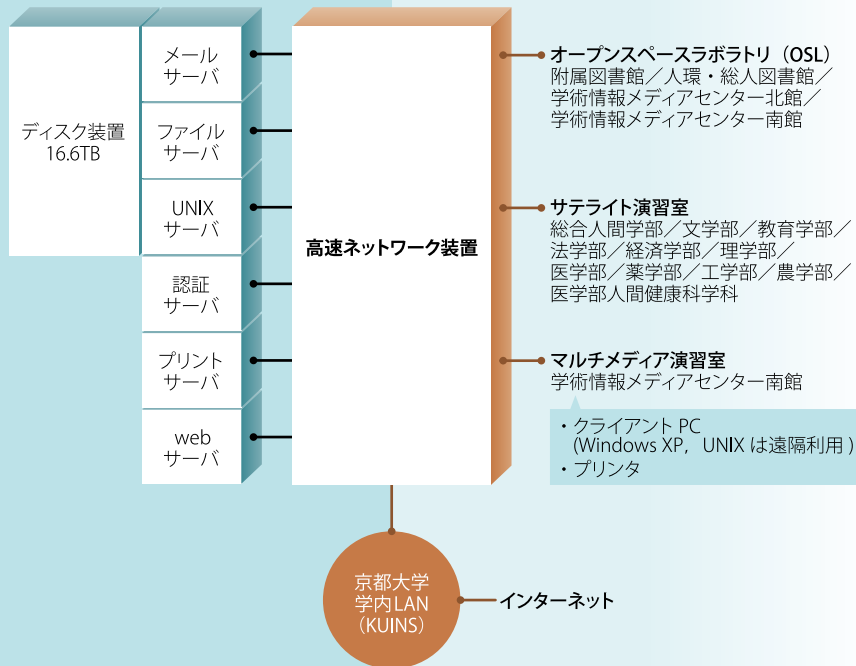
遠隔講義支援サービスでは、学術情報メディアセンターをはじめとする学内の遠隔講義用施設を利用して、国際遠隔講義、大学間遠隔講義、キャンパス間遠隔講義など、さまざまな遠隔講義の支援を行っています。国際遠隔講義としては、時差の少ないアジア圏との遠隔講義が定期的に行われています。台湾との遠隔講義、中国、マレーシアとの3ヶ国同時進行型遠隔講義、インドネシア、タイとの国際シンポジウムなど、新しい講義やセミナーも次々に開設されています。国内の他大学（慶応義塾大学、広島大学、東京電機大学など）との遠隔講義も開講されており、他大学の学生と同時に講義を受けることのできる機会も広がりました。

これらの遠隔講義の多くは全学共通科目として開講されており、学年や学部にかかわらず受講できる体制となっています。さらに、桂キャンパスの開設にともなって、吉田、桂、宇治それぞれのキャンパスを結び高精細遠隔講義システムも運用されています。開講されている講義をキャンパス間の移動なしに受講できるため、受講科目選択の幅が広がっています。

このほか、衛星回線を用いた遠隔講義システム SCS の運用を行っており、国内の多数の大学・研究期間を結んだ遠隔講義、会議を支援しています。さらに、このような遠隔講義の設備や技術を用いて、京都市や京都府をはじめとする学外組織の文化・学術活動を支援しています。

教育を支える施設

サーバ群



【図】教育用コンピュータシステム システム構成図

担当：情報部 情報基盤課
ネットワーク担当



【写真】国際遠隔講義風景

図書館

貴重な資料、データベースなど
充実した学術情報と、館内施設・設備による
学習支援・研究支援を行っています。

【写真】開架図書棚

附属図書館

附属図書館は学習・教育・研究支援機能をもち、学生、教職員をはじめ、学術情報を必要としている人々に広くサービスを行っています。IT時代にふさわしい図書館をめざして、情報リテラシー教育、新入生のためのオリエンテーション、留学生のためのオリエンテーション等各種講習会を実施しています。

蔵書は下の表に示されているように、附属図書館では約87万冊、全学で約647万冊所蔵しており、創立より114年にわたる歴史から、国宝「今昔物語集 鈴鹿本」をはじめ、古文献資料、特殊文庫、全集ものコレクション等、貴重なものが数多くあります。また、理工学系外国雑誌のセンター館として国内未収集の学術雑誌を東京工業大学と連携して収集し、全国の研究者の利用に供しています。また、学外からインターネットを介して京都大学附属図書館ホームページにアクセスして、デジタル化した貴重資料を見たり、京都大学が所蔵している図書や雑誌を検索することができます。学内からは電子ジャーナルと文献データベースが利用できます。

蔵書数（平成23年3月31日現在）

部局名	蔵書数			所蔵雑誌種類数		
	和書	洋書	計	和雑誌	洋雑誌	計
附属図書館	614,537	254,781	869,318	14,130	9,484	23,614
全学	3,347,738	3,124,976	6,472,714	61,199	56,670	117,869

注：全学の蔵書冊数に附属図書館の冊数含む全学の所蔵雑誌種類数はのべ数

館内の施設・設備等

3階の情報端末エリアには情報環境機構のオープンスペースラボラトリーとして106台のパソコンおよび情報コンセント22口があります。このパソコンの利用にあたっては情報環境機構への登録が必要です。

また1、2階閲覧室の北側エリアでは、無線LANが利用できますので、情報環境機構へ登録していれば、持参のノートパソコン等でインターネットに接続することもできます。

●学習室24

学習室24は、附属図書館が閉館した後も、朝まで勉強できるスペースです。91席の自学自習用のエリアと、41席の飲食・談話ができるエリアがあり、無線LANの設備も用意しています。

学習室24は、利用者の安全を考慮して、入退室する際に必ず学生証あるいは職員証を認証装置に通す必要があります。また、防犯カメラを6か所に設置し、夜間には警備員を配置しています。

●研究個室

研究個室は、大学院生と教員向けに、より研究に専念できる環境として用意した一人用の個室です。附属図書館の3階に14室あり、各部屋には有線の情報コンセントを設置しています。

●共同研究室

共同研究室は、グループでの共同研究や学習のために利用できる部屋です。4名以下の少人数向け2室、8名程度の中規模向け2室、20名収容可能な1室の合わせて5室を用意しています。これらの部屋全てには、有線の情報コンセントを設置しています。また、ホワイトボードやプロジェクターを使うこともできます。共同研究室は学部学生も利用することができます。

●蔵書検索システム（KULINE）

京都大学の蔵書は、蔵書検索システム KULINE（Kyoto University Libraries Information Network system）で検索でき

館内の施設・設備等

閲覧室	1,289席
1階	端末コーナー、学習室24、参考図書、雑誌、新聞の各コーナー
2階	開架図書と閲覧室
3階	情報端末エリア、メディア・commons、ライブラリーホール、研究個室、共同研究室
地階	書庫

附属図書館

附属図書館宇治分館

人間・環境学研究所総合人間学部図書館

文学研究科図書館

教育学研究科・教育学部図書室

法学研究科・法学部図書室

経済学研究科・経済学部図書室

医学図書館

医学図書館人間健康科学系図書室

薬学研究科・薬学部図書室

農学部図書室

農学研究科生物資源経済学専攻司書室

エネルギー科学研究科図書室

情報学研究科図書室

地球環境学堂図書室

理学研究科・理学部

理学部中央図書室

数学教室図書室

物理学教室図書室

宇宙物理学図書室

化学教室図書室

生物科学図書室

地球惑星科学専攻図書室

工学研究科・工学部

地球系図書室（桂）

建築系図書室（吉田・桂）

物理系図書室

航空宇宙工学図書室

電気系図書室（吉田・桂）

化学系図書室（桂）

工業化学科図書室

地球工学科図書室

アジア・アフリカ
地域研究研究科

アジア専攻図書室

アフリカ専攻図書室

ます。KULINE はインターネットで公開していますので、どこからでも検索できます。

URL <https://op.kulib.kyoto-u.ac.jp/webopac>

KULINE は京都大学の蔵書約 647 万冊のうち約 482 万冊が検索できます。検索のページのキーワード欄に書名・著者名等を入力し検索をクリックすると、所蔵している本の書名と京都大学のどこの図書館・図書室で所蔵されているかを知ることができます。中国語の簡体字やハングル等、多様な文字の表示もできます。

●メディア・コモンズ
(Media Commons)

附属図書館に、映像や音楽が楽しめる「メ

ディア・コモンズ」があります。CD、DVD をはじめ多種のメディアに対応できるように構想され、勉強や研究に必要な映像や音声情報を活用できるほか、学生や教職員が読書や勉強で疲れた頭を映像や音楽でリフレッシュさせることができます。

ガラス張りの広さ 240m² のスペースに、DVD やビデオ・カセットが見られる 1 人用個人ブースが 16 席、窓越しに時計台や吉田山を見ながら CD、カセットを聴くことができる 1 人用ソファが 8 席、50 インチの大型プラズマ・ディスプレイで迫力ある映像を楽しむことのできる 4 人用 AV コーナーが 2 カ所等合計 32 席があり、さらに 5.1 チャンネルスピーカーを装備したメディア・シアター（防音設備付 / 10 席）などがゆったりとした

空間に配置されています。京都大学文学部卒業生である故片田清氏寄贈のコレクションを含む CD6,606 点のほか、DVD889 点（映画、ドキュメンタリー、音楽ほか）、ビデオ 465 タイトル（ドキュメンタリー、言語）などを置いています。



【写真】学習室 24



【写真】閲覧室



【写真】オープンスペースラボラトリー



【写真】新聞コーナー



【写真】メディア・コモンズ (Media Commons)



【写真】外観